



＼男女共同参画にまつわる新鮮ネタをお届け！／

男女共同参画ニュース

vol. 8 ～男性だって家庭に参画！育休を取得した男性職員に話を聞きました！～

市役所では近年、育児休業を取得する男性職員が増えてきました。某企業では、出産祝金として数百万円を支給するという報道もあり、社会全体で子育てを支援していくようになってきました。もはや「子育ては女性がやるもの」なんて、ほとんど聞かなくなってきたのではないのでしょうか。

そこで今回は、3か月～半年間の育休を取得して育児という貴重な時間を過ごした男性職員3名にお話を聞きました！

仕事も大事ですが、子育ての時間は「今」しかありません。男性も女性も同等に育休を取得することが当たり前前の社会になっていくよう、社会全体で考えていきませんか。



● 育休中はどのような生活を送っていましたか。

- 天気の良い日は抱っこひもをつけてみんなで散歩や買い物に行ったり、地域の子育てイベントに参加したりしていました。ミルクやおむつ替え、入浴など慣れるまで大変でしたが、妻と一緒に楽しみながらできました。
- 主に日中は自分、夜間は妻、というふうに育児の役割分担をしていました。
- 「妻しかできない授乳以外はなんでもやる」という気持ちで、食事、洗濯、買い物など、家事全般なんでもやるようにしていました。また、布おむつで育てたかったので、よく布おむつも洗っていました。下の子が3歳になった今も続けています。

● 育休を取得するに当たり、職場との調整はどのようにされましたか。

- 通常の人事異動と同様の引継ぎをしました。その後は上司にお任せしてしまったので、ご迷惑をおかけしたと思います。
- 半年位前に上司へ報告し、できるだけ引継ぎ案件がないよう努力しましたが、時間的に難しい面もありました。家族で決めたこととはいえ、長期のお休みに申し訳ないという気持ちでいっぱいでした…。
- 育休取得前、育休期間中のやるべきことをなるべく詳細にまとめ、上司に引き継ぎました。また育休中も自分しか分からないことがあればチャットで聞いてもらってやりとりしていました。本当に感謝です。



● 育休中の苦労話などあれば教えてください。

- 妻と一緒にいる時間が増えた分、自分の至らない点もあり、妻と衝突(喧嘩)することが増えました。そのため時間によって役割分担するなど工夫していました。
- 夜泣きが一番大変でした。次女につられて長女も夜泣き始めると、もはや夜の合唱(笑)。そういう時は子ども達が泣き疲れて眠るまでリビングで妻とおしゃべりしてました。
- 一人目の時は、育児の合間にリスニングなんて考えていましたが、実際には家事・育児で手一杯でした。また、平日に子育て施設へ行ってもお母さんばかりで、あまり居心地は良くなかったですね。

● 育休を取得して思ったことを教えてください。

- かけがえのない時間を家族と一緒に過ごすことができ本当に良かったです。一方で、育休中は周りの職員に大きな負担をかけてしまったので、周りの職員にもメリットを、例えば、私の人件費分を課内の職員に手当として支給するような制度ができれば良いなと感じました。
- 取得前から、「子育ての時間が妻の方が多いなってズルい。貴重な時間を自分も共有したい」と思っていました。なので、子供の成長をずっとそばで見られた感動はとても大きく、本当に幸せだと思いました。取得できるなら3年くらい取りたかったです。
- 子と一緒にゆっくり過ごすことができたのは良かったです。子育ての大変さもわかり、少しは妻の大変さも共有できたと思います。



● 今後、どのような社会になっていくとよいと思いますか。

- 世界的に見ても、日本の男性が利用できる育休の制度は、金銭的な面でサポートが大きいと思います。市役所は職員も多く比較的育休が取得しやすいと思いますが、少人数の会社では取得が現実的に不可能だという話も聞きます。自分が経験した素晴らしい時間を、子育てする多くの男性にも経験してほしいです。そして、それが普通な社会になってくれると良いなと思います。
- 妻、夫に関わらず育児休業を取得し、妻と夫が同じくらい育児に関わることが当たり前前の社会になればいいと思います。
- 子育て世帯も含めて、すべての方が自分にあった働き方や生き方を選べる制度が増えて、社会や組織もそういう雰囲気になっていくといいなと思います。

困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が施行されました

令和6年4月1日、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。この法律では、従前の売春防止法に基づく女子に対する補導処分・保護更生を目的としていたことから脱却し、「女性の福祉」、「人権の尊重や擁護」、「男女平等」といった視点に立ち、困難な問題を抱える女性一人一人のニーズに応じて、本人の立場に寄り添って、切れ目のない包括的な支援を行うことが明記されました。お困りごとがありましたら、まずはお気軽にご相談ください。